

大学における教養科目としての

「環境力」を有する T字型人材育成プログラム ガイドライン

『「環境力」を有するT字型人材育成プログラムガイドライン』（環境力ガイドライン）は、環境に関する基礎的知識を持ち、環境問題解決に向けた行動を起こす人材を育成するための教育指針です。

環境力ガイドラインは、大学の教養科目で導入されることを想定しており、文系理系を問わず、各学部の教養科目等において幅広く活用いただけます。

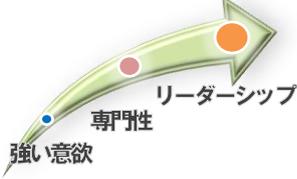
また企業等において環境経営を進めるにあたり、必須となる知識や能力の育成が可能です。

「環境力」を有するT字型人材の育成

環境ガイドラインは「環境力」を有するT字型の環境人材育成のための教育指針です。

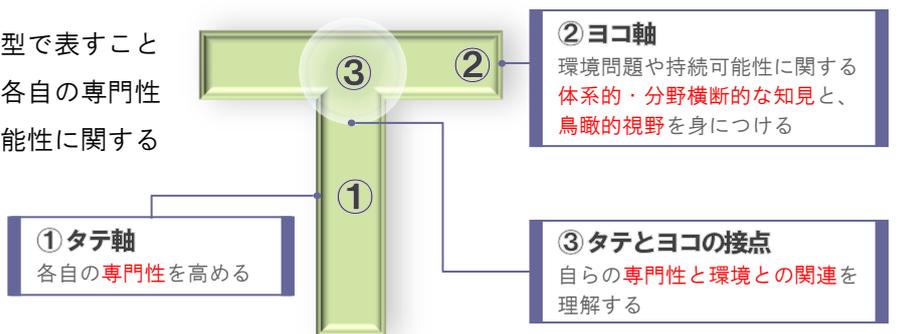
環境人材とは

環境人材とは「強い意欲」「専門性」「リーダーシップ」の3要素を持ち、持続可能な社会構築をリードする人材です。

環境人材 の定義*	■自己の体験や倫理観を基盤とし、環境問題の重要性・緊急性について自ら考え、各人の専門性を活かした職業、市民活動等を通じて、環境、社会、経済の統合的向上を実現する持続可能な社会づくりに取り組む強い意志を持ち、リーダーシップを発揮して社会変革を担っていく人材 <small>*環境省「アジア環境人材育成ビジョン」より</small>	
----------------------	---	---

T字型の環境人材育成とは

環境人材が備える能力は、右図のようなT字型で表すことができます。タテ軸では、法学や工学など、各自の専門性を高めます。ヨコ軸では、環境問題や持続可能性に関する体系的・分野横断的な知見と鳥瞰的な視野を身につけます。タテとヨコの接点では、自らの専門性と環境との関連を理解します。



環境力ガイドラインの概要

環境力ガイドラインは1科目15項目*で構成されています。1コマ90分の授業の具体的な教育内容を提示しています。

*1項目=1コマ(90分)

Point1 知識、スキル、態度の養成

知識	スキル	態度
<ul style="list-style-type: none">■環境問題の全体像を把握するための基礎的な知識■個別の環境問題と人類の活動との関連性を理解する鳥瞰的視野■環境問題と自らの行動の相互関連性に関する分野横断的な知識	<ul style="list-style-type: none">■環境問題の複雑性や個別の環境問題の関連性を認識する能力■環境問題を自らの問題として捉え、問題解決のための意思決定を適切に行う能力	<ul style="list-style-type: none">■持続可能な社会構築に向けた環境配慮活動の意義を理解する態度■環境問題の解決や持続可能な社会の構築に取り組むために責任ある行動をとる態度

Point2 授業に役立つ事例の紹介

本ガイドラインは、環境問題に関する知識を教えるだけでなく、自発的な学び、思考、行動に結びつくような教育手法を重視しており、体験型学習やワークショップ形式を授業に導入することを推奨しています。ガイドライン巻末には、授業に役立つ具体的な教育事例やビデオ教材リストを掲載しています。

■ 例1 各項目の中に体験型学習やワークショップ形式を導入して、スキル、態度が身につくように工夫する。	<table border="1"><tr><td>項目1</td><td>ワークショップ</td></tr><tr><td>項目2</td><td>体験型</td></tr><tr><td>項目3</td><td></td></tr><tr><td>項目4</td><td>体験型</td></tr><tr><td>⋮</td><td></td></tr><tr><td>項目15</td><td>ワークショップ</td></tr></table>	項目1	ワークショップ	項目2	体験型	項目3		項目4	体験型	⋮		項目15	ワークショップ	■ 例2 体験型学習やワークショップ形式を独立した項目として導入して、スキル、態度を身につける。	<table border="1"><tr><td>項目1</td><td></td></tr><tr><td>項目2</td><td>ワークショップ</td></tr><tr><td>項目3</td><td></td></tr><tr><td>項目4</td><td>体験型</td></tr><tr><td>⋮</td><td></td></tr><tr><td>項目15</td><td></td></tr></table>	項目1		項目2	ワークショップ	項目3		項目4	体験型	⋮		項目15	
項目1	ワークショップ																										
項目2	体験型																										
項目3																											
項目4	体験型																										
⋮																											
項目15	ワークショップ																										
項目1																											
項目2	ワークショップ																										
項目3																											
項目4	体験型																										
⋮																											
項目15																											

環境力ガイドラインの構成紹介

【基本項目①】

地球と人類の関わりと環境問題及びその対策

環境問題の全体像を鳥瞰的に理解する

① 導入：環境問題とは何か

環境問題の歴史的振り返りと問題発生の際の経緯の理解

様々な環境問題の概観

問題の原因の考察と解決のための多様な要素の理解

環境問題を見る視点の整理
フリンジ問題との関連

② 地球・人類の歴史と環境問題

人口増加の歴史と環境問題
(人口増大と産業革命)

人類の発展と資源エネルギー
(資源エネルギー種類と消費量の変化)

環境倫理 (持続可能な社会のための行動とライフスタイル)

③ 地球システムと生態系

地球46億年の歴史と地球システムの構成

地球規模の循環と生態系、そのサービス

人間活動の増大による地球システムと生態系の危機的状況

私たちにできる行動

④ 資源と地球の容量

資源の賦存状況と人類の資源消費状況

人口増加・経済発展と環境許容量を超えた資源消費水準

地球ホメオスタシスの変調

持続可能な発展のための取組

⑤ 環境対策史

我が国の公害問題の経緯と対策

地球規模の環境問題の発生と対応

公害問題の経験と地球環境問題の現状・展望から得られる教訓

【参考項目】

環境問題の各論

環境問題の個別の事象と相互関連性を理解する

① 地球温暖化・エネルギーと対策

② 大気・大気汚染と対策

⑥ 生物多様性の損失と対策

③ 水・水質汚染 土壌・土壌汚染と対策

④ 廃棄物・リサイクルと対策

⑤ 化学汚染物質と対策

【基本項目②】

持続可能な社会構築に向けた各主体の取組

持続可能な社会構築に向けた行動やライフスタイルを考える

⑥ 政府・自治体の取組

環境政策における行政の役割と政府・自治体の関係

政府の持続可能な社会への取組

自治体の持続可能な社会への取組

⑦ 企業・NGO/NPOの取組

企業及びNGO/NPOの環境への取組の事例

企業の環境への取組の歴史と環境マネジメントシステムの概要、環境報告書と環境コミュニケーションのツール

NGO/NPOの取組の概要と役割
(地域・国・国際レベル)

企業が環境への取組を行う意味、必要性、その評価のあり方、NGO/NPOの役割

⑧ 持続可能な社会構築のためのパートナーシップ

パートナーシップとは何か (個人作業と発表)

パートナーシップの具体例 (グループ討議)

パートナーシップを進めるために (協働の原則)

⑨ まとめ：持続可能な社会の構築に向けて

サステナビリティの概念 (歴史とその内容)

鳥瞰的視野の構築 (学習した環境問題を振り返り、環境・社会・経済に分けて理解するグループ討議)

サステナビリティに関する現状 (国際的活動の理解)

学問の専門性と環境問題/サステナビリティ

全体のまとめ～我々はどうすべきか

「環境力」を有するT字型人材
育成プログラム構築事業
ワーキンググループ座長
京都大学名誉教授

高月 紘 氏

3. 11以降、環境問題が非常に重要であると再認識されています。そこで本プログラムが目指す環境力、すなわち知識、スキル、態度を身につけ、環境問題全体を鳥瞰的に見たうえで、問題解決に向けて考え、行動できる人材が必要となります。学生達には、環境問題をぜひ自分の問題として捉えてもらいたいと考えています。環境問題全体を理解し、知識を身につけ、さらには個別の事象の関係性も理解しながら、最終的には自分の問題として捉え、環境問題のために自ら行動する、そのような環境人材が、環境力ガイドラインの活用にて多く育成されることを切に願っています。

EcoLeaD代表幹事
東京大学名誉教授
国際連合大学名誉副学長

安井 至 氏

我々はもはや環境を考えずに日々の生活や企業活動を営むことはできません。しかし環境は非常に範囲が広く、様々な知識が必要であると同時に専門性をも必要とします。横に鳥瞰的視野と知識、縦に専門という二つの能力を備えたT字型の環境人材育成を行っていく必要があります。大学学部の初年度や教養課程等で、専門に関わらず共通して勉強できる、基礎的かつ俯瞰的な授業が必須です。環境力ガイドラインは、単なる指針にとどまらず、授業の内容や関連する事例まで提示されている詳細なガイドラインです。環境基礎力を養うために、全ての大学で使っていただくことを願っています。

(五十音順)

■ EcoLeaDのガイドライン関連事業

EcoLeaDでは、より多くの大学院での導入に向けて、下記のような事業を検討しています。

- ガイドラインに基づいた教科書や教材の開発
- プログラムのコース認定
- 修了生の資格認定

■ お問い合わせ

環境力ガイドラインは、幅広い普及を目的として、EcoLeaDホームページで公開しています。冊子版は、郵送料実費のみで無償配布しております。（日本語版・英語版あり）ご希望の方は、下記ご連絡先まで【氏名、所属団体名、部数、用途】をお知らせください。環境力ガイドライン及び環境人材育成コンソーシアム（EcoLeaD）に関するご質問やご意見等は、下記ご連絡先までお問い合わせください。

環境人材育成コンソーシアム事務局

〒150-0002 東京都渋谷区渋谷2-14-18-4F
TEL: 03-6418-0375 / FAX: 03-6418-0380
E-mail: info@eco-lead.jp / URL: www.eco-lead.jp